

【提出様式】 令和7年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立

要小

学校

評価対象者数 (人)			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
387	293 (約75%)	21	8

領域	豊島区教育ビジョン 2025 基本方針等	評価番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に向けた改善策					
				児童・生徒				保護者				地域				教職員				自己評価概要	学校関係者 評価の意見		評価				
				4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1								
II	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	II-1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。					79	134	10	3	67	6	2	0	0	0	0	0	11	9	0	1	今年度は4園の園児が来校し、行事参観、給食・授業体験、施設開放等を行った。保護者等からは一定の評価を得たが、他項目と比べると「分からない」という回答も見られた。	幼保との連携を積極的にしている。交流が多いので、就学時の不安軽減に繋がっている。	A	幼保小連携の取組を教職員に見える化して意識を高める。また、今後は、行事や教育活動を通して、学校間のつながりがより分かりやすく伝わるよう、情報発信を工夫していく。
I	確かな学力の育成	I-1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。	73	160	20	3	37	5	2	0	0	1	6	15	0	0	「分かりやすい授業」については、令和5年度以降、安定して高い評価を得ている。昨年度から校内研究で取り組んできた「要の学び合い」も定着してきている。ICT機器の活用については、肯定的な評価が徐々に高まっている。タブレット端末を活用した授業が定着し、調べ学習や意見の共有などに効果的に活用されていることが伝わってきている。	学習はおおむね定着している。スキップでの宿題は計画的に取り組んでいる。どの学年もICTを活用しているのが見受けられるが、クラスによって差があるのが課題である。	A	「要の学び合い」については、定着してきているので、次年度以降も継続していく。ICT機器については、「使うこと」自体が目的とならないよう、考えを深めたり、振り返ったりする場面で活用を一層工夫する。					
		I-2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。		69	158	25	4	37	3	4	0	0	1	8	13	0	0	R6年度からR7年度にかけて特に評価が高まった。児童同士が互いのよさを認め合い、安心して意見を伝え合える雰囲気が、日常の学校生活の中に定着してきていると考えられる。また、人権尊重教育推進として新たに取り組んだ「かなめハートDay」や各学年による人権についての授業も含め、取組の成果が上がっている。	人権教育推進の取り組みの成果が表れている。子供たちの成長にしっかりと現れている。	A	人権教育推進のための取組を一過性のものにせず、学校体制や組織の中で継続して行い、要小学校の特色ある教育活動としてさらに育てていく。道徳授業については、日々の授業を見合ったり、年一回の道徳授業地区公開講座を活動して、教員の授業スキルを上げながら、児童の内面に迫る授業づくりに励みたい。保護者への啓発も引き続き行っていく。					
	I-3	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。	82		171	8	6	26	4	4	0	0	0	10	9	2	0	食育や健康教育に関する項目は、一貫して非常に高い評価を得ている。体力向上のための取組(投の運動・長縄・短縄・持久走)をそれぞれ十日間程度、全校で行った。全校共通でカードも使用しているため、保護者に取組の内容が伝わりやすいと考えられる。					食事は五感で感じて欲しい。いいにおいで温かい給食は食育になっている。持久走やアルティメット授業など、体力向上の取り組みが充実している。	A	体力向上及び給食指導や栄養指導、生活リズムを整える取組など保護者の皆様にも評価されていることを、継続して取り組んでいく。次年度は、体力向上の取組が年間を通じて行うことができるよう、実施時期を1年間の中でバランスよく配置する。		
	I-4	学校は、生命を大切にできる態度や思いやり、優しい心を育てている。	84		161	11	3	34	4	4	0	0	0	9	11	1	0		いじめ防止に関する項目では、「分からない」という回答が一定数見られた。本校では、いじめ防止対策委員会を中心に、未然防止・早期発見・早期対応に組織的に取り組んでいるが、その取組が十分に伝わっていない可能性がある。どちらの項目も、個人への対応が多いため、どのように行っているのか見えにくい状況は続いている。	学校全体で取り組んでいることが分かる。個別対応では、管理職が率先して行っている様子が分かる。「分からない」という回答は、ご自分のお子さんが関係していないための回答なので、肯定的意見と考えて良いのではないかと。	A	学校としての体制や考え、現在行っていることを保護者の皆様に分かりやすくお伝えし、より一層の安心感につなげていく。早めの連絡や細やかな情報共有を継続して行い、児童理解を基盤とした丁寧な指導と保護者との連携を行っていく。					
	健やかな体の育成	I-5	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。		78	159	25	4	27	5	3	0	0	0	8	12	1	0					いじめ防止に関する項目では、「分からない」という回答が一定数見られた。本校では、いじめ防止対策委員会を中心に、未然防止・早期発見・早期対応に組織的に取り組んでいるが、その取組が十分に伝わっていない可能性がある。どちらの項目も、個人への対応が多いため、どのように行っているのか見えにくい状況は続いている。	学校全体で取り組んでいることが分かる。個別対応では、管理職が率先して行っている様子が分かる。「分からない」という回答は、ご自分のお子さんが関係していないための回答なので、肯定的意見と考えて良いのではないかと。	A	学校のルールを統一した指導や全教職員で全児童を見ていく姿勢を継続する。ルールが伝わっていないご家庭もあるのえ、繰り返し周知する。アンケートやご意見がどのように学校の取組に反映されたのかを、保護者会や学校だより等で具体的に伝えていくことで開かれた学校づくりを進める。	
		I-6	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。		126	141	9	0	17	4	4	0	0	0	7	10	3	1	学校の様子が「よく分かる」という評価は、全項目の中でも最も高く、安定して高水準を維持している。学校だよりやホームページを通じた情報発信が、学校への信頼につながっている。家庭と地域との連携は、毎年高評価をいただいている。地域と学校、PTAが連携して行っている行事等が評価されていると考える。	学校便りの内容が分かりやすい。地域との連携が取れているので、コミュニティスクールでも上手く連携が取れることを期待している。	A	今年度途中より、一週間ごとに担当学年を決めて、HPへのアップを行っている。次年度も続けていく。また、学校の取り組みがまだ十分に伝わっていないところについては、今後も充実にも努めていく。次年度は、コミュニティスクールが始まるにあたり、地域やPTAとの連携をさらに深めたい。教員の働き方も合わせ、連携の在り様を考えたい。					
III	一人一人を大切に教育の推進	III-1	学校は、いじめ防止等(未然防止、早期発見、早期対応)に学校全体で組織的に対応している。	54	127	19	7	86	4	3	0	0	1	10	11	0	0	たてわり班活動やインクルーシブな教育については、本校の特色として高く評価されている。今年度は学校公開週間でもたてわり班遊びを見てもらう機会を設定した。「わからない」の回答をさらに減らしていきたい。					特別支援学級がある要小の強みである教育活動である。引き続き、充実した活動を期待したい。	A	昨年度よりたてわり班遊びで行う各班の計画書を廊下に掲示している。見える化を継続し、ホームページなどでさらに周知していきたい。たてわり班遊びとの交流については、行事や日常生活での交流が特別なことではない当たり前のかわりとなっている。こうした要小の特色を継続していく。		
		III-2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。	77	146	23	6	41	4	4	0	0	0	10	11	0	0		概ね組織的に運営されているという意見であるが、低評価もある。休憩時間の確保や業務分担、そもそもの仕事量の多さなど課題は残っている。	多忙を極める職種ではあると思うが、先生達が生き生きと働いているように見受けられる。	A	仕事の仕方については、短期的に見ると個人で行う方が早いですが、長期的に考え学校の体制として組織的に取り組んでいく。組織力の向上が働き方改革にもつながってくる。事前の相談や資料の周知を行うことでスムーズな進行を促し、会議の終了時刻を意識した話し合いを行う。					
		III-3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。	78	96	3	3	113	6	2	0	0	0	10	10	1	0									概ね組織的に運営されているという意見であるが、低評価もある。休憩時間の確保や業務分担、そもそもの仕事量の多さなど課題は残っている。	多忙を極める職種ではあると思うが、先生達が生き生きと働いているように見受けられる。
V	家庭・地域との連携	V-1	学校は、秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。	72	183	23	3	12	3	5	0	0	0	7	12	2	0	たてわり班活動やインクルーシブな教育については、本校の特色として高く評価されている。今年度は学校公開週間でもたてわり班遊びを見てもらう機会を設定した。「わからない」の回答をさらに減らしていきたい。					特別支援学級がある要小の強みである教育活動である。引き続き、充実した活動を期待したい。	A	昨年度よりたてわり班遊びで行う各班の計画書を廊下に掲示している。見える化を継続し、ホームページなどでさらに周知していきたい。たてわり班遊びとの交流については、行事や日常生活での交流が特別なことではない当たり前のかわりとなっている。こうした要小の特色を継続していく。		
		V-2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。	74	130	13	4	72	4	3	0	0	1	7	13	1	0		たてわり班活動やインクルーシブな教育については、本校の特色として高く評価されている。今年度は学校公開週間でもたてわり班遊びを見てもらう機会を設定した。「わからない」の回答をさらに減らしていきたい。	特別支援学級がある要小の強みである教育活動である。引き続き、充実した活動を期待したい。	A	昨年度よりたてわり班遊びで行う各班の計画書を廊下に掲示している。見える化を継続し、ホームページなどでさらに周知していきたい。たてわり班遊びとの交流については、行事や日常生活での交流が特別なことではない当たり前のかわりとなっている。こうした要小の特色を継続していく。					
V	家庭・地域との連携	V-3	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。	119	158	11	2	3	7	0	0	0	1	10	11	0	0	たてわり班活動やインクルーシブな教育については、本校の特色として高く評価されている。今年度は学校公開週間でもたてわり班遊びを見てもらう機会を設定した。「わからない」の回答をさらに減らしていきたい。					特別支援学級がある要小の強みである教育活動である。引き続き、充実した活動を期待したい。	A	昨年度よりたてわり班遊びで行う各班の計画書を廊下に掲示している。見える化を継続し、ホームページなどでさらに周知していきたい。たてわり班遊びとの交流については、行事や日常生活での交流が特別なことではない当たり前のかわりとなっている。こうした要小の特色を継続していく。		
		V-4	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。	87	158	14	2	32	3	4	0	0	1	8	13	0	0		たてわり班活動やインクルーシブな教育については、本校の特色として高く評価されている。今年度は学校公開週間でもたてわり班遊びを見てもらう機会を設定した。「わからない」の回答をさらに減らしていきたい。	特別支援学級がある要小の強みである教育活動である。引き続き、充実した活動を期待したい。	A	昨年度よりたてわり班遊びで行う各班の計画書を廊下に掲示している。見える化を継続し、ホームページなどでさらに周知していきたい。たてわり班遊びとの交流については、行事や日常生活での交流が特別なことではない当たり前のかわりとなっている。こうした要小の特色を継続していく。					
V	特色ある教育活動	V-6	学校は、たてわり班活動や、すずかけ学級と通常学級との交流を通して、健全な人間関係を築く力を育てる教育を進めていますか。	112	147	6	0	28	5	2	0	0	1	10	11	0	0	たてわり班活動やインクルーシブな教育については、本校の特色として高く評価されている。今年度は学校公開週間でもたてわり班遊びを見てもらう機会を設定した。「わからない」の回答をさらに減らしていきたい。					特別支援学級がある要小の強みである教育活動である。引き続き、充実した活動を期待したい。	A	昨年度よりたてわり班遊びで行う各班の計画書を廊下に掲示している。見える化を継続し、ホームページなどでさらに周知していきたい。たてわり班遊びとの交流については、行事や日常生活での交流が特別なことではない当たり前のかわりとなっている。こうした要小の特色を継続していく。		
		IV	働き方改革	IV-1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。														8	9	4	0				概ね組織的に運営されているという意見であるが、低評価もある。休憩時間の確保や業務分担、そもそもの仕事量の多さなど課題は残っている。	多忙を極める職種ではあると思うが、先生達が生き生きと働いているように見受けられる。

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある